

焼酎粕発電所が完成

宇佐に県内初 排液も肥料に



宇佐市に完成したバイオガス発電所

循環型クリーンエネルギー

県内で初めての焼酎粕を利用した本格的なバイオガス発電所が宇佐市に完成した。

焼酎粕を発酵させて取り出したメタンガスでタービンを回し発電する。出力は600キロワット。

焼酎粕など有機性廃棄物を1日約30ト処理する能力があり、年間総発電量は303万キロワット時となる。全て九州電力(福岡市)に売電し、年間1億2000万円

の売り上げを目指す。総事業費は約10億円。建設したのは、未来雄社長。27日に行われた完成式には、永修治市長も出席。末宗社長らが、発電機のスイッチを入れると、ゴーという音とともに稼働を開始した。

焼酎メーカーが産業廃棄物として処分している焼酎粕を燃料とすることで発電コストを抑える。さらに発電後に残る「消化液」も液肥として活用が可能で「循環型クリーンエネルギー」として注目される。液肥は、同電力の関連会社「未来農林」が隣に運営するカボス農園(25畝)で活用するほか、ミカンなどを栽培する日足地区

の農家に無償提供したり、その他の地区の農家に販売したりする。同電力は2012年に県内初のメガソーラー発電所を稼働させた実績がある。末宗社長は「環境に優しく、焼酎会社や農家にもメリットがあり、先駆的な試みだ」と強調している。

【大瀬実知朗】